

第3号様式（第6条第1項関係）

市長	副市長	部長	課長	主幹・副主幹	主査・主査補	班員
付議・報告部課						

令和8年5月18日

会議結果報告書（行政経営戦略会議）

1 日時及び場所

令和8年5月18日（月）午前9時30分～ 本庁舎4階大委員会室

2 出席者

環境課 鈴木課長 石田係長 船本主任主事

3 件名

印西市との包括連携協定を踏まえ、LMC（ランドスケープマネジメントセンター）に参画することについて

4 会議結果

- 案のとおり決定する。
- 一部修正の上、決定する。
- 継続して検討する。
- 案を否決する。
- 報告を了承する。

5 会議内容

- ・開発することによって、自然に負荷を与えてしまうのではないか。  
→開発は、雑木を切って緑化する、コンクリートづくりを木材づくりにする等、自然に極力負荷をかけない取組を想定している。
- ・現在、任意団体とのことだが、法人格の取得について検討しているのか。  
→キックオフ会議の時に、活動が進む中で検討していくとの回答を得ているので、法人格の取得については引き続き検討を行っていきたい。
- ・会員になるということは、意思決定権があるのか。  
→会員になることにより、1票の意思決定はあるので、他の団体等を入れて中立性を保ちたいと考えている。
- ・公平性の担保についてはどうか。  
→市民や研究者の参加もあり、一定の公平性は担保されていると考えているが、改めて設立総会までに整理する。
- ・千葉ニュータウンから50年近くが経過し、自然と都市の調和の中で、開発と保全のバランスを保ち、併せて、包括連携協定を締結している印西市と協調していくこと。

備考 会議内容を簡潔に記載すること。

付議書(行政経営戦略会議)

部課名 市民環境経済部 環境課

件名	印西市と包括連携協定を踏まえたLMC(ランドスケープマネジメントセンター)の参画について	
現状・課題	<p><b>【LMCとは】</b>                  行政や企業、研究機関や市民団体などが会員として参加予定の任意団体(中間支援組織)。地域の自然をどのように活かしていくかという将来ビジョンを共有し、科学的根拠に基づくマップや活動メニューの作成、行政や企業、市民団体、地権者、農業者、研究機関等をつなぎ、実践活動へと結び付ける活動等を行う。また、その成果を評価・可視化し、地域版認証制度等の仕組みの検討にもつなげる。</p> <p>国の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)における研究において、白井市・印西市域を含む北総地域(印旛沼流域)が対象地として位置づけられ、提唱されている理念を具体的な形として社会実装するものがLMCとなる。</p> <p><b>【現状】</b>                  市の環境基本計画では「市民等の環境活動や事業者による環境貢献の取組等の際に、地域特性へ十分配慮した、より適切かつ効果的な環境保全を実現し、市民・事業者・行政の各主体が納得できるプロセスとなるよう、学識者の専門的知見を基に中立的な立場で支援する中間支援組織の形成・連携の推進」を位置づけており、また、都市マスタープラン、景観とみどりの基本計画(案)においても中間支援組織の形成推進等が位置づけられている。</p> <p><b>【LMCに参画する目的・意義】</b>                  市においても遊休農地や放棄林の増加、獣害、暑熱や豪雨への対応など、地域課題は複合化しており、行政だけでなく、企業、市民団体、地権者、農業者、研究機関等が連携して対応していくことが求められている。</p> <p>これらの課題に対応するためには、個別の公園や緑地、農地、樹林地等をそれぞれに管理するだけではなく、市境をまたいで分布する自然や、印旛沼流域として関係する水循環を、地域全体の資源として捉える視点が重要である。</p> <p>市では、谷田地区でのサウンディング等での活用を検討し、一方、印西市では、グリーンインフラでの活用を検討していたことから、当初別々に協議していたが、令和7年10月に白井市と印西市で、まちづくりに関する連携協定が締結され、環境保全及び都市基盤整備に関する連携事項として、LMCの設立にし、LMC側からも両市共同で参画する重要性等の説明が令和8年3月にあり、協議を進めてきた。</p> <p><b>【課題】</b>                  LMCに依頼する取組等が両市に共通するもの、共通しないものがあるため、会則や負担金額について調整する必要がある。</p> <p>また、両市で依頼する個別事業については、共通経費とは分けた負担金額の調整が必要となる。なお、共通事業、個別事業のどちらにおいても情報を共有し、今後の取組に反映できるものとする。</p> <p>市において、今後は、谷田地区のサウンディングの状況等を踏まえた地域版の認証制度等の設計に向けた庁内調整等が必要となる。</p>	
付議事案	目的	環境保全及び都市基盤整備(主に景観やグリーンインフラ)に関する取組を印西市と共同し、及び情報共有し進める。
	対応 方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と都市が共生する地域像の共有、発信</li> <li>・地下水涵養、生物多様性などを定量評価、マップ化し活動に活用</li> <li>・多様な主体のマッチング、活動支援</li> <li>・環境評価、認証の仕組みづくり</li> </ul>
論点(決定を要する事項)	印西市と包括連携協定を踏まえたLMC(ランドスケープマネジメントセンター)の参画について	
部内会議や関係課等との調整結果(主な意見・懸案事項)	<p><b>【部内会議】</b>                  印西市との包括連携協定を踏まえ、参画する理由、意義を明確にする。</p> <p><b>【都市計画課】</b>                  LMCの設立及び印西市と合同で参画することについて協議済み。</p> <p><b>【未来創造戦略室】</b>                  「谷田地区における土地活用に関するマーケットサウンディング」については、実施要領内に、『既存の自然資源や文化資源、歴史資源、景観資源などの有効な保全・活用策について北総ランドスケープマネジメントセンター準備室(令和8年5月発足予定)から助言・指導を受けてください。』が明記された。</p>	



## ランドスケープマネジメントセンターの活動内容

### 1 自然と都市が共生する地域像の共有、発信

- ・都市、農地、山林、河川などを一体的に捉えたランドスケープビジョンを、地域の環境基本計画等と整合させる内容で、かつ具体的な内容で作成する
- 地域ブランド価値の向上

### 2 地下水涵養、生物多様性などを定量評価、マップ化し活動に活用

- ・地下水涵養、生物多様性、水質浄化、炭素蓄積、暑熱緩和などの生態系サービスを定量評価しマップ化する
- ・企業や市民団体に対し、場所に対応した活動メニューを提示
- ・どこで何をすれば効果的か、どれだけの効果が期待できるかを科学的エビデンスに基づいて提示

### 3 多様な主体のマッチングと活動支援

- ・ 企業と地域団体の共創プロジェクトを設計、支援する
  - ・ 機材、技術、人材情報の共有などを通じて、現場での実践を後押し
- 印西市は、グリーンインフラの取組として、公共施設への雨庭（雨天時に雨水を地下浸透させゆっくり河川に水を流す取組）の設置や普及啓発、谷津再生などに取り組む予定。
- 両市共通の取組として（仮称）里山大学という里山保全活動を予定しており、白井市としては市民大学校の環境版のような取り組みができないか検討する。（主体はLMC）

### 4 環境評価と認証の仕組みづくり

- ・ 企業等の活動による環境の損失と回復への貢献を定量評価することで、TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）等への対応を含め、企業の情報開示を支援する
  - ・ 開発行為等により企業が地域に新規参入する際に、自然環境への負のインパクトの少ない選択肢の提示や関連する貢献メニューの提示などの調整
  - ・ 自治体との調整のうえ、地域ビジョンへの貢献に応じた地域版の認証制度の仕組みを検討
- 谷田地区のサウンディング等の結果も参考とする。

# 北総ランドスケープ マネジメント センター 会員になりませんか？

地域の自然を活かした、**新しいまちの魅力づくり**や、**地域の困りごとの解決**を  
一緒に進める仲間を募集しています

北総ランドスケープ マネジメント センター  
(LMC北総)は、

まちなかの公園や緑地、農地、水辺を含む地域全体を対象に、科学的根拠に基づいて課題や可能性を見える化し、地域に合った取組を実践につなげていく組織です。

大雨への備え、獣害対策、暮らしやすさの向上、学びや交流、地域のにぎわいづくりなど、未来につながる取組を広げていきます。



## 地域で、こんな取組を進めます

### 大雨に強く、涼しく 歩きたくなるまちをつくる



公共施設や企業の敷地内に雨庭や緑地をつくり、地面に雨水を染み込ませて洪水のリスクを下げます。緑が増えることで、夏の暑さをやわらげ、歩いていて気持ちの良い景観も生まれます。

### 農地や樹林を活かし、 安心して暮らせる環境へ



企業や市民団体などが連携しながら、農地や樹林の手入れを進めます。イノシシなどの獣害を減らすだけでなく、地下水涵養や生物多様性などの自然の機能を高めます。

### 自然を活かして 新しい価値や交流を生み出す



竹を使ったバイオ炭づくりや親子向けの体験学習、健康づくりにつながる屋外活動などを通じて、脱炭素や資源の有効利用を進め、交流や教育、観光につながる地域の魅力を高めます。

## 会員として関わるメリット



地域で取り組みたいことについて意見を出し、活動の方向づけに関われます



企業・市民・行政・研究者とのつながりができ、連携の可能性が広がります



イベントに社員や家族と参加しながら、福利厚生や社内交流にも活かされます



環境貢献や地域貢献の取組を、科学的根拠に基づいて評価し、行政にも認められる活動につながられます。

## 会員制度

個人・団体・企業が会員として参加し、地域の自然を活かした取組を支えます。

○個人会員：5,000円/年 ○団体会員：10,000円/年

○企業会員：100,000円/年 ○賛助会員：1口10,000円（複数口可）

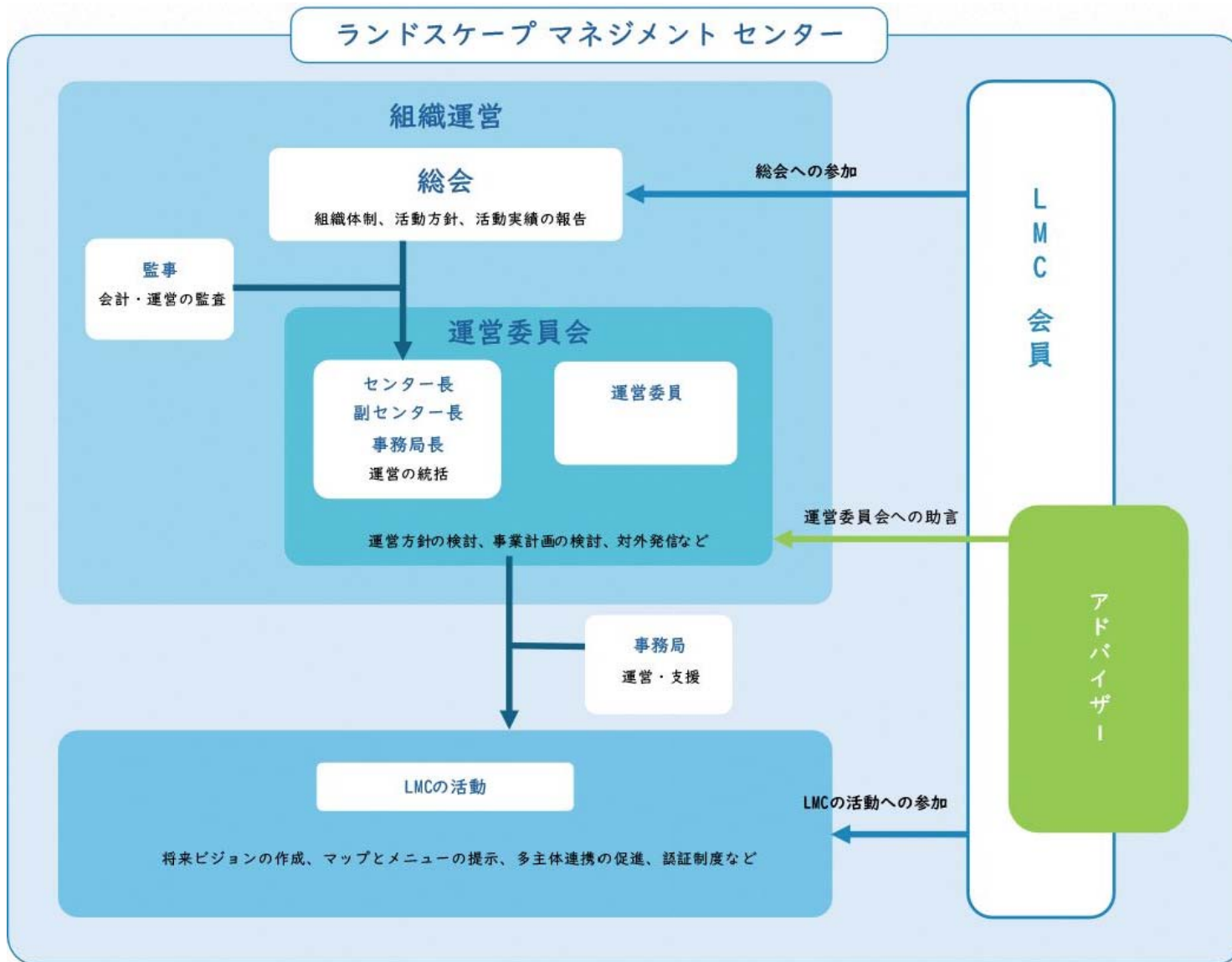
## お問合せ

北総ランドスケープ マネジメント センター (LMC北総)

担当者：大坂 真希

✉MAIL: osaka.maki@nies.go.jp

# 組織運営体制



# 立ち上げメンバーおよび体制案

※検討中・調整中

## LMC会員

### 監事

嶋田善康※（白井市副市長）  
野崎崇正（印西市副市長）

### 運営委員会

#### 役員

センター長 大坂真希（国立環境研究所）  
副センター長 村上暁信（筑波大学）  
事務局長 佐竹康孝（SODO）

#### 運営委員

産：竹中工務店 代表者：三輪隆  
官：印西市環境保全課  
白井市環境課  
学：武田史朗（千葉大学）  
西廣淳（国立環境研究所）  
民：斎藤はるか（はる農園）  
矢野真理（谷田武西の原っぱと森の会）  
次世代：内川花野（東京大学大学院 学生）  
柏本ゆかり（MS&ADインターリスク総研）

### アドバイザー

#### 非会員

MS&ADインシュアランスグループ  
ホールディングス※  
代表者：浦嶋裕子  
国際社会経済研究所※  
代表者：篠崎裕介  
みずほ銀行※  
代表者：（未定）  
及川隆信（産業総合技術）  
中川考介（鹿島建設）  
橋本純（清水建設）  
林哲生（中央復建コンサルタンツ）

WWFジャパン  
千葉銀行  
西部洋晴（大和ハウス工業）

### 会員

企業会員

団体会員

個人会員

好田繁※（UR）